

# パラシュート・リミット

前川泰信 作

## 登場人物

- A 非常口真智子 (まち・部長) 演劇部員  
B 鳥目佐知 (さち) 演劇部員  
C 堀之内睦美 (むっさん) 演劇部員  
D 一般女子生徒/過去のA /香奈恵(かなび) 演劇部員一年生  
E 一般女子生徒/過去のAの友達 /玲子(れいちやん) 演劇部員一年生  
F 一般女子生徒/過去のAの担任 /まな(まあ) 演劇部員一年生  
G 一般女子生徒/過去のC /和江(かずちゃん) 演劇部員一年生  
H 一般女子生徒/過去のCの双子姉/直実(なおなお) 演劇部員一年生  
I 沢木(たくぼく) 演劇部顧問  
J 宝蔵院早苗 生徒会長  
K 中学教師A/落武者京子 生徒会会計  
L 中学教師B/土御門ちなつ 生徒会書記  
M 中学教師C/羅生門さつき 生徒会副会長  
N Cの友人/過去のB  
O 過去のBの友達/生徒実行委員(進行)  
P 過去のBの友達/最後に通る女子生徒  
Q 食堂のおばちゃん

幕開け前に、P・S・Y・Sの「パラシュート・リミット」が流れ始める。英語で「パラシュート・リミット」という言葉が入った所で幕開け。

薄暗い舞台。舞台後方にひな壇が組まれ、上下二段に並んで大勢の女子高生が静止している。歌が始まった所で、パツと明るくなり、全員が踊り出す。(または慌ただしく動き回る)女子高生たちは、制服姿の背中に全員パラシュートのリュックを背負っている。最終的に、全員が舞台前から飛び降りるような格好をする。が、下を見下ろして、互いに顔を見合わせる。ぶつと歌が途切れる。

全員 無理無理無理無理っ！

しばらくお互いに譲り合うように争っているが、やがてあきらめる。がやがや言いながら上手下手に退場。三人の女生徒A・B・Cが残る。三人の中学教師登場。上手からKが、ひな壇背後からL・Mが、それぞれ箱を二つずつ持って。

この箱はかなりたくさん用意されており、必要に応じて積み上げたり並べたりする。その都度、それが椅子・机になったり、家具になったり、建物になったりと、多義的に空間を構成する。

AとKが舞台中央ひな壇下、BとLがひな壇上の上手、CとMがひな壇上の下手に、それぞれ箱を椅子にして向かい合って座る。面談を開始する。それぞれにサス。

以下、台詞を言うのは指定された人物であるが、言わない人物も言っている人物と同じ動きをする。すなわち、三組の面談は全く同じ動きでシンクロしている。ただし、冒頭の名を呼ぶところは、それぞれ。

K 真智子さん。

L 佐知さん。

M 睦美さん。

KLM いよいよ今年は高校入試ですよ。

K 面接で言うことは決めましたか。

A いえ…。

大事なのは自分を堂々とアピールすることです。

はあ。

あなたが中学時代に頑張ったことは何？

さあ。

さあってどういうこと？

頑張ったことって言われても。

ないの？

まあ、自分なりに。

それを言えばいいのよ。

でも言うほどのことじゃあ。

部活動は？ 三年間やったでしょ。

はあ、でも補欠だし。後輩に抜かれたし。

係活動は？

言われた仕事をやっただけだし。

行事は？

いっつもその他大勢。

じゃあ、今からでもチャレンジしたら？ 後期の委員長とか。

無理。

合唱の指揮とか。

無理。

ボランティアに出かけてみようか。

無理。

絶対無理！

じゃ、高校どうするの？

A K 行けるところに行ければいいです…。

サス消えて、全体的に青舞台。ME。教師はけて、A・B・Cはひな壇を降りる。同時に、上手下手から、女子高校生がぞろぞろ出てきて、ひな壇を向き、座り始める。その中で何人かが、壇上に演台らしき形に箱を積み、両サイドに縦長に積む。

だいたい座ったあたりで、下手から壇上にマイクを持った女子生徒Jが登場。

J 次の…。

マイクがハウリングを起こしてピーツと音を立てる。縦長に積み上げた箱がスピーカー。近すぎたことを確かめて、ちよつと離れる。

J 失礼しました。次の部活動紹介は、演劇部です。

ひな壇の後ろから、教師Iが上がってくる。小脇に、大きな人形「ジョージ」を抱えている。それを舞台上に座らせて、サイドに立ち。

I えー、あー、その演劇部顧問です。あ、これはその、一人で出るのが心細いんで、えー、部室にあった人形と一緒に来てもらいました。ジョージと言います。よろしくねジョージ。(腹話術の声で)『よろしく』。

一斉に、女子高生たち、寒気を感じる。

I あのー、うちだけ、なんで顧問が紹介するかっていうと、まあ、要するに部員がないわけで。

女子高生たち、一斉にざわめく。

I 今年、君たち新入生が入ってくれないと、廃部なわけで、えーまー、正直、そうなる私には楽でいいんですが、『それ言っちゃだめだろ』ああ、ごめんごめん。

女子高生たち、耐え難くなって、もたえる。

I で、そのー、活動内容はですね。まあ、演劇部って言うくらいだから、演劇を…。

J (さえぎって) はいありがとうございました。じゃあ次、吹奏楽部です。

I あ、ども。あつ。

I、人形をひな壇から落とすが、Jに急かされて上手に退場。照明薄暗くなる。

D 何あのおやし。

E あり得ないから。

F ちよつと、これ。

G きもつ。

H ねー、あんた入れば？

D 入るって？

H 演劇部。

D 無理無理。

E だよー。

などと、女子高生たちは口々に言いながら、上手下手にぞろぞろと去る。去る中で、上手のA、下手のB、それぞれ立ち止まって、ゆつくりと人形を振り返る。やがて、お互いに気が付き、はつとす。ゆつくりと近づく。ME。上手からI登場。

I ジョージー、ごめんねえ、忘れて。…あれ？

A B …。

I あれ、もしかして、あのー、えーとお…

A・Bの顔をのぞき込む。二人、うなづく。

I そうなの？

二人、うなづく。

I ジョージが欲しい。

二人、流れで一度うなづいてしまってから、慌ててブンブン首を振る。

I 違っの？ えっ？ まさか入部希望？ マジで？

A えつと。

I ほんとにほんとに？

B あのー、無理だったら…

I 全然無理じゃない無理じゃない。

A ほんとですか？

I ほんとほんと。

B でも、暗記とかマジ苦手なんですけど。

I やー、不思議なことだね。セリフだと覚わるんだわ。

A 大きい声出したことないし。  
I 人間ね、大きい声出ない人いないのよ。  
A や、それは…。  
I ほんとほんと。子供ってさ、みんなうるさいでしょ。  
B 「(子供キャラでうるさいの台詞)」。  
I そつそつ。それから酔っぱらいもうるさいでしょ。  
B 「(酔っぱらいキャラの台詞)」。  
A あ、アニメ好き？  
B うん。  
A 私も。(握手)  
I あれね、要するに声を小さくする力が育ってなかったり、弱まったりしてるわけ。  
B 小さくする力。  
I そ。人間本来は声がかいんだけど、成長する内に、小さくする訓練がされてくわけ。  
A ほんとかなあ。  
I ほんと。だから、声のリミッターをね、外す練習するだけなの。大丈夫。  
B うーん。  
I 名前は？  
A 非常口真智子です。  
B 鳥目佐知です。  
I 顧問の沢木です。よし、明日から練習開始！

I が興奮しながらしゃべって、二人を連れて下手に退場。同時に、上手からCがかばんを持って登場。後からNが追いかけてくる。

N むっさん。  
C ん？  
N 部活決めた？  
C えーと。  
N 写真部にしない？  
C え？ 写真って…。  
N 大丈夫。実質活動ないって。  
C ない？  
N もう中学のバレー部で飽き飽きでしょ、部活なんて。  
C ん。まあ。  
N とにかく自由が一番。どう、放課後カラオケ三昧。  
C ああ、でも…。  
N じゃ決まり。登録用紙出して。提出しといたげる。  
C あー！。

N、登録用紙を奪い取って、上手に退場。Cが呆然と見送る。  
そこへ、上手から食堂のおばちゃんR、登場。近づいてきて肩をポンと叩く。

C あ、食堂のおばちゃん。

R、満面の笑みをうかべて、Cに竹輪を手渡す。

C 竹輪？

R、上手に去る。袖に引っ込み際に振り向いて、力強く親指を立ててウィンク。C、しばらく竹輪を見つめて、下手に去る。ME。

コロス登場して、大量の箱を積み上げていく。窓をつけて、校舎らしくみえる。下手から、A・Bがジャージ姿でへるへるのランニングをしながら上手に駆けすぎる。すぐに上手から戻ってくる。それを下手から出てきたIが迎える。

I まあそのへんにしよう。じゃ、発声練習。

A え？

I 何？

A ここですか？

I 昔っからここだけど。

B ええっ。

I 何？

B いえ。

I はいじゃ、後について大きな声を出して。アメンボ赤いなアイウエオ。はい。

A B アメンボ赤いなアイウエオ。

I ちよっと小さいけど、まあ最初だから。梅の実落ちても見もしまい。はい。

A B 梅の実落ちても見もしまい…。

上手下手から、生徒らが通る。知らん顔をして通り過ぎる者あり、ちらっと見てくすくす笑う者あり。中にCがいる。振り返ってしばらく見ているが、やがて通り過ぎる。だんだん、A・Bはうつむいて発声できなくなる。

I どうした？

A 無理。

I は？

A こんなとこ見られるなんて無理です。

I どういうこと？

B みんな笑ってるじゃないですか。

I まあ、そういう奴もいるだろうけど。

B 無理！

I いや、でも、うちは演劇部だから。普通の人だったら恥ずかしいことを、人前で堂々とやる部だから。

A・B 無理！

I そう言われても。

A 先生、どこか人に見られない場所で練習させてください。

I ええっ？

B 私たち、そうじゃないとやめます。

I そんな。

I、ふらふらとよるけて、校舎の形の箱にもたれる。がらがらと崩れる。I、肩を落として下手に去る。AとB、気まずそうに後を追って退場。上手から、J、K、L、Mを伴って登場。

J 何何何！ もう一回言って。

K だから、演劇部が。

J なんて復活するわけ？

L だから部員が入ったって。

J 信じらんない。

M たしかに。顧問のあの勧誘活動で入るやつがいるなんて。

K 何あのキモイ人形。

J これで廃部決定！と思ったのに。どこのどいつよ、入部した物好きは。

L どうしよう、予算案やり直し？

M 文化祭の夢のオープニングが。

J よーし。この生徒会長に任せなさい。  
K どうすんの？  
J 考えがある。

四人は上手に退場。下手奥から倉庫の閉まる音。箱をたくさん積み上げて持って、A・B・Jが下手から登場。

J よし、ここだ。

A えー。

B なんか薄暗い。

J 文句言わない。やっと交渉成立したんだから。

A ここが部室兼練習場所か。

B 倉庫？

J 積年のがらくたを無理言っただけで片づけてもらった。じゃ、あとはよろしく。

A どうしたらいいんですか？

J 女の子でしょ。部屋のコーディネートくらいしないと。

B はい。

J じゃ、任せたから。

A B ありがとうございます。

J ああ、それとさあ。

A はい？

J ここから仕事が忙しくなるし、これからは自分たちで工夫して何とかして。人前に出られない演劇員  
って、さすがにつきあえないからさ。

A 自分たちでって？

J 正直、もう面倒みきれない。夏の大会は自分たちで準備してってこと。

B えーっ？

J それじゃ。

A ちよつと待・・・

J、下手に退場。戸の閉まる音。呆然とする二人。Bへたりこむ。

A 大丈夫？

B ごめんねパトラッシュ。なんだかとっても眠いんだ…。

A ちよつと！ 天使降りてきちゃうよ。

B やっぱ、無理なのかなあ。

A 悪いのは私たちだけどね、明らかに。

下手から、J、KLMを伴って登場。

J あのー。

A はい？

J ちよつといい？

A 何ですか？

四人は、部室内をじろじろ見て回り、時折荷物をいじったりする。

B ちよつと、いきなり何ですか？

A 誰？

J 私を知らない？

A はい。

J うちの高校の生徒で、私を知らない？

B はあ。

J えーいつ、もぐりもぐりもぐり！ 伊勢の海女（あま）より本格的なもぐりめ！ アワビ取りの名人め！

A 何？

B さあ？

J しょうめい、プリーイイズっ！

三人にスポット当たる。派手なME。

K （電卓をかざしてポーズ）ガキの頃からそろばん好きで、珠算三段、暗算五段、サイン・コサイン・タンジェント、微分積分なんでもござれ、この学校の銭勘定、一手に引き受け後には退かぬ、会計担当、落武者京子（おちむしゃきょうこ）たあ、私のことよ！

L （巨大な筆をかざしてポーズ）さてその次はこの私、筆をもたせりや敵はなし、毛筆初段、硬筆二段、楷書、草書に、行書に篆書、書いた通信数知れず、書記を受け持つ、土御門（つちみかど）ちなつ！

M （何か出そうとするが、用意してないので、あわてて適当にかわいいポーズでこまかす）ふっくら顔が愛らしい、内助の功がお似合いで、「副」と付くもの何でもこなし、副室長に、副部長、ついになつたる副会長、サポート役は任せて安心、羅生門（らしょうもん）さつき！

J （堂々とふんぞり返って、生徒会長バッジをつきだし）さてどんじりにひかえしは、容姿端麗、成績優秀、誰もが羨む美貌と頭脳、知らぬ者なき優等生、みんなのアイドル、がこの女神、生徒会長宝蔵院早苗（ほつぞういんさなえ）！

四人 四人合わせて、三段原東（さんだんばらひがし）高校生徒会執行部 人呼んで「ファンタスティックフォー」見参！（ポーズ）

溶明。 AとBは全く無視して、部室の整理をしている。

J 聞けええええっ！

A え？

J いい根性してるわね。

A はい？

J 名前は？

A 非常口真智子です。

B 鳥目佐知。

K あなたたち、演劇部？

B はい。

A 一応。

J そっか、ほんとに入部したんだ。

K でしょ？

L 何考えてんだか。

M ほんとほんと。

A あのー、それで何か？

J 部員って何人？

B 二人です。

J これで全部。

K たくぼく喜んでる？

A たくぼく？

K 沢木先生。顧問よ顧問。

A 喜んでるっていうか。

J でさあ、聞きたいんだけど。

B はい。

J 二人ってどうなの？

B は？ そっち方面には興味な…

J 二人で劇って出来るもんなの？

B さあ、それは…。

J 正直むずかしくない？ 大会って出られるの？

K なるほど！

L さすが生徒会長。

M 人の弱みは見逃さない。

J ふっふっふ。

A まだ始めたばかりなので分かりません。

J そんな部でもさあ、予算がつくわけよ。はっきり言ってちょっと迷惑なわけ。

A 迷惑？

K 今年入部ゼロだったら、演劇部なくなって、予算の配分がうまくいくなあって思ったのにさ。

B そんな。

J でさあ、さつき見てたけど、二人ともそんなに部活に燃えてるって感じしないのよ。

A …。

J で、相談なんだけど。えーと、勝手口さん？

A 違います。

J 減らず口さん？

A は？

J ああつ、裏口入学さん！

B 「口」以外も覚えるよ。

J 今から転部しない？

A 転部？ 部を変われてことですか？

J ものすごく助かるのよ、生徒会としては。

K せーのっ。

K L M て・ん・ぶ！ て・ん・ぶ！ (K、剣を出して舞い始める) け・ん・ぶ！ け・ん・ぶ！

(L ピンクの袋を出してノモしくは尻を振る) で・ん・ぶ！ で・ん・ぶ！

(M 四つんばいになって口を開けて、Kが後ろに腕でしっぽをつけ) げ・ん・ぶ！ げ・ん・ぶ！

A 全部、しゃれに無理がある…。

J 今なら、私、宝蔵院早苗のプロマイド、あ・げ・る。考えといて。

四人、下手に去る。A・B、肩を落として、崩れた箱を片付け始めるが、すぐにあきらめて座り込む。上手から、カメラを首から提げてC登場。窓の陰からのぞく。しばらく見ているが、あきらめて帰ろうとすると上手から、R登場。肩をぼんと叩いて、竹輪を示し、それを望遠鏡のようにして、部屋の中をのぞく。そして、にっこり笑って竹輪を渡し、上手に去る。去り際に振り向いて、土俵入りの格好をして引っ込む。しかたなく、Cは竹輪で中をのぞいていると。

A あれ？

B 何？

A 誰かいる？

B え？

B が様子を見に出ると、Cをばったり鉢合わせになる。

B うわわわわわっ。

A どした？

B なんか竹輪を持ったカメラマンが。

A は？

後ろを向いてもじもじしているCに二人が話しかける。

A 何？  
 B 写真撮ってたの？  
 C あ、すみません。(逃げようとする)  
 A 待って待って。何？ 女カメラ小僧？  
 C いえ。  
 B 何か用？  
 C あの一。  
 A はい？  
 C やっぱいいです。  
 B ちよつと、何、言いかけて。  
 A 気になるじゃん。  
 C ・・・。  
 A いいから話して。  
 C あの。  
 B はい。  
 C 私、写真部の堀之内睦美っていいいます。  
 A うん。  
 C このカメラは、EOS キス っていうデジタル一眼で、ダブルズームセットでカメラのキタムラで買って、八万五千六百円のところを、八万四千円に買ってもらって買ったんだけど、ピント合わせのポインントがたたくさんあって、アナログカメラよりもかなり早く合うし、シャッターの反応も早いんで、動いているものも撮り逃さない、なかなかの名器なんだけど  
 A (割り込む) あの一。  
 C はい？  
 A カメラ屋さん？  
 C 全然。  
 A じゃ何今の。  
 C え、私何しゃべってました？  
 B おいつ！  
 A 何、写真部が何か用事？  
 B 私たち撮るの？  
 C いやー、二人は撮りたいような感じ全然しないし…  
 B おいつ！  
 C あ、いやいやいやいやいや、そういう意味じゃなくて。  
 B どういう意味？  
 C (逆ギレ) 写真部関係ないんですっ！  
 A B おいつ！  
 A じゃ、今までのは何なんだ！  
 B はつきりしろっ！  
 C だから！ … 入部したいのっ！

問

C あ。  
 A 今、なんて言った？  
 B 入部？  
 C あ、ごめんなさい。帰ります。  
 A ちよつと待ったあああつ。  
 B 入部ってどういうこと？ 写真部じゃないの？  
 C だから、あの、写真部は友達に無理矢理入れられたっていつか。

- A で？
- C ほんとは演劇やりたかったんだけど。
- B ほか？
- C 部活説明会の人形で入りにくくなって。
- A B あーっ！
- A やっぱり。
- B 顧問めーっ！
- A ジョージめーっ！
- C でも、だめですよ。
- A だめじゃない、だめじゃない。
- B 歓迎歓迎大歓迎。ホワイエンホワイエン。
- C ほんと？
- A B ほんと！
- C やったーっ！ (がらつと変わった太い声で) んじゃ、よろしく！
- A ええっ？
- B 何いきなり？
- C 入っちまえばこっちのもん！
- A 何その変わりよう？
- C 始めは処女のごとく、後には脱兎のごとし。
- B なんかパワフル！
- C おうよう。
- A うちらみたいにうじうじしてない。
- C まかせとけいっ！
- B ばんばん外に出て行けそう。
- C あたぼうよう！
- A じゃ、ちよつと第二校舎の前で発声練習する？
- C よっしゃあ！…え？
- A 発声練習。
- C でかい声出すの？
- B そう今みたいに。
- C あっちの校舎の前で？
- A うん。
- C 人通るよね。
- B もう、ばんばん。
- C …無理無理無理無理！
- A B …なんだ。同じか。
- M E。ファンタスティック4が下手から入ってくる。
- A また来た。
- B 忘れ物ですか？
- J 新しい情報が入ったんで、教えてあげようと思ってね、非常口さん。
- A 覚えてるじゃん。
- J それから、そっちの、「暗い所でものが見えにくい」さん。
- B 明らかにわざとだろ。
- J え、ものもらいさん？
- B おいっ！
- J 結膜炎さん？
- B あのねー。
- J ああつ、ドライアイさん！

- B くどー！
- J 資料を。
- K はい。
- J 私の集めた情報によると、素人が演じる劇で、二人芝居は非常にきつい。
- L そうなの？
- J 考えてみて、二人が一時間ずつつつとしゃべってんだよ。
- L うわ、きつ。
- J 役者の出入りがないと、どうしても観客が飽きる。
- M なるほど！
- J というわけで、よく聞きなさい。演劇部っていうのはね、最低三人は…いるじゃん！
- M いつの間に増えてんのよ。
- A 二分くらい前に。
- J ええい、卑怯な！
- B おいおい。
- K そっちがその気なら、こっちにも覚悟があるから。
- A その気って…
- C ねえ、この人たち何？
- B しーっ。
- A 自己紹介すごく長いから。
- J いいこと？ こうなったら、私たちも手段を選ばないから。
- K こんなことで夢をつぶされてたまるか！
- L うん。
- A 夢？
- M 夢の文化祭、オープニング！
- A あのー。話が見えないんですけど。
- B オープニングって？
- J 三段原東高校文化祭、通称「カルビ祭」。
- K 年々、盛大になってきてるんだけど。
- L オープニングがいまいよいよ。
- M それで今年の新企画。
- 四人 夢のオープニング「マッチョ祭り」！
- ME。男性制汗剤のCM「ゴリマッチョ」「細マッチョ」の音楽に乗って、上手から細マッチョ、下手からゴリマッチョがジャージ姿で出てきて、ポーズを決めながら踊る。一団の最後に竹輪をかざしたRも紛れ込んでいる。
- J このマッチョ軍団の舞い踊る中を、
- K ファンタスティック4の登場！
- A はあ？
- マッチョ軍団の中に入って、のりのりで踊る四人。MEが消えるのと同時に、マッチョ軍団すばやくはける息をはあはあさせながら、
- L これぞ、女の花道。
- M 夢のオープニング。
- J 分かった？
- A へ？
- B 全然。
- C ねえ、この人たち怖い。
- K 予算が要るのよ、予算が。

L マッチヨな男を可能な限り集めて。  
M 舞台いっぱい踊らせるには！  
A …ちよっと待って。その費用に、うちの部費をよこせ、ってこと？  
J その通り。  
A あなたたちの妄想を実現するために。  
K 妄想じゃない。  
M 夢よ、夢。  
A 帰れ！  
B 意地でも転部しない！  
C よくわかんないけど、右に同じ。  
J そう。だけどいい？ 三段原東高校の看板を背負って舞台に立つ以上、  
K 情けない劇はしないでね。  
L 夏の地区大会、楽しみにしてるわ。  
M 見苦しい劇だったら、即廃部。  
四人 せいぜいがんばることね。

四人、下手に去る。

A くそお。  
B 生徒会は敵だし、顧問には見放されるし。  
C え？ 顧問？  
A あ、ごめん。  
B 言つの遅れた。  
A さつきね。顧問に勝手に大会準備しろって突き放された。  
C ええっ？ なんで？  
A ……。  
C え？  
A わたしたちが、あんまり情けないから。  
B 人前で発声とか無理って言ったら、あきれられた。  
C あー。それでさつき「同じ」って。  
A うん。  
B よりよって、引っ込み思案三人集まって演劇部かあ。  
C ねえ、いつから、こんなふう？  
A うーん。

照明変わる。D（小学生のA）・E（同級生）・F（担任の先生）上手から登場。

F はい、じゃ今日は実験やりまーす。  
D E わーい。  
F まず、このランプに火を点けます。やりたい人。  
D はいっ。  
F はいじゃあ、真智子さん、このマッチ擦って。  
D はい。  
D、はりきってやるが、なかなか火が点かない。

D あれ？ あれ？  
E 真智子ちゃん、ちよっと貸して。  
E、受け取ってあっさり点ける。

- F さっちゃん、上手ねえ。  
E えへへ。  
D ……  
F じゃあ、さっちゃん、この上にピーカーを置いてくれる？  
E はい。  
D あ、それ私やる。

D、Eの手から奪おうとして、倒してしまう。パリンというSE。

D あ…。

三人固まる。照明変わる。

- A はりきってでしゃばった上に、失敗。あの「パリン」って音、なんか忘れられないんだよねえ。  
B それがきつかけ？  
A どうだったかなあ。たぶん、似たようなこといっぱいやった気がする。  
C それでだんだんに？  
A なんかよくわかんない。もともとこんな性格だった気もするし。  
C ふーん。  
A さちは？  
B 私もはつきりしないんだけど。

O (幼いB) その友達P・Q。「わーい」とか言いながら出てくる。

- P ねえねえ、何してあそぼっか。  
Q プリキュアごっこ！  
O さんせー。  
P じゃ、わたし、キュアブラック。  
Q わたし、キュアホワイト。  
O じゃ、キュアピンク。  
P いねーよ。  
O じゃ、キュアベージュ。  
Q もつといねーよ。  
P まちちゃん、プリキュア観てないの？  
O 観てるよ。  
Q じゃ、なんで知らないの？  
O 知ってるもん。  
P じゃ、ブラックって誰？  
O え？  
Q ホワイトは？  
O あの。  
P Q やっぱり。  
O 私、ほんとは「xxxホリック」ごっこやりたい。  
P へ？  
Q 何それ？  
O あのねあのね、(以下、子供らしからぬ解説を延々とする)  
P ……何言ってるの？  
Q なんか変。  
P もつ、むっさん遊んであげない。

Q 行く。  
P 行く行い。

P Q上手に去る。取り残されるO。照明変わる。

C 保育園にしてオタク全開。

A やっちまったって感じ？

B その後もいろいろ痛い目に遭って、やっと簡単に地を出しちゃだめだって分かって。

A ふうん。

B 堀之内さんは？

C むっさんでいいよ。

B むっさん。

照明変わる。 G (胎児のC)・H (双子の胎児) 上手に登場。

A 何あれ？

C お母さんのお腹の中の私。

B 二人いるけど。

C 私、双子なの。

B そうなの？

G そろそろ出なきゃいけないねー。

H だねー。

G 外ってどんなかなー。

H なんかさあ、肺に空気入ってくるらしいよー。

G えー、風船じゃあるまいし。

H すっげー、痛いつて。

G げるげる。何ちよっとまじ？

H まじまじ。あとさー、外ってえ、超リアルらしいよ。

G リアルって？

H も、なんかさー、みんなよってたかって触りたがるんだって。

G なんだよ。

H きゃー、やわらかい！とか言つて。

G ざけんなよ。

H でしょー。

G んなら、なめらかプリンにでも手え突っ込んでろつつの。

H あとさ、股の辺、くるまれるんだって。

G 何、暑苦しい。

H しかも紙だぜ紙。

G しくてんなあ、おい。ヒートテックとかねえのかよ。

H まったくよお。でさあ、おめえ、先に出てくれね？

G おめえはよ？

H おれ、ここ残るわ。

G はあ？ てめ、ざけんじゃねえぞ。おめえ出るよ。

H イヤ、無理無理無理。

G おれも無理無理無理。

H 無理無理無理無理無理。

G 無理無理無理無理無理。

A B うそだね！

照明戻る。

C 多少フィクションも入ってるけど。  
A 全部でしょ。

C そのくらい昔から、内弁慶ってこと。

B ふーん。

A …あのさ。

B C

A そういう劇にしない？

B 劇？

A 地区大会。

C あー。自分たちで作るってこと？

A うん。うちらみたいな徹底的に引っ込み思案な人物が、ここでも引っ込むかってどこでも引っ込みじゃう話。

B おー。それってコメディ？

C 受けるかなあ。

A 女子高生らしからぬシチュエーションがいいと思うんだよね。

B らしからぬ？

A なんかない？ 引っ込み思案の人が、これやらされるかって、ギャップのあること。

C うーん。

B ジェットコースターとか。

A いまいちなあ。

C 猛獣狩りとか。太い眉毛描いて。

B じゃ、あれ、ほら、ヘリコプターとかから、うわーって。

A ああ、あれ！

C ええっとほら、スカイダイビング？

B パラシュート付けて。

A それだっ！ 女子高生が無理矢理スカイダイビングしなくちゃいけない話。

B お、おもしろそう。

C でも、受けるの？

A 最初だから、無事幕が降りたらオツケくらいな気持ちで。

B イメージかなり浮かんでる？

A うん。台詞もちよっと。

C 題名とか。

A うん。「パラシュート・リミット」

M E。「パラシュート・リミット」かかる。それをBGMにして、無言劇展開。

・脚本をいろいろ話し合ってる様子。

・書き上がった、みんなで喜ぶ様子。

・顧問に見せて、出場手続きを頼んでいる様子。

・時折、偵察に来る四人組。

・練習をしようと外へ出るが、人影を見ると隠れてしまう。

・どうにもうまく行かないで、しよげた様子で下校準備をする。

青舞台。M E。ミステリーの。上手袖から、B登場。物陰に隠れて、何かを見つめている。上手から下手にダッシュして、また物陰からのぞく。そのまま部屋に入る。ためいきをつく。ふと見ると、ジョージが座っている。ふと思いついて、ジョージを相手に、無言で芝居を始める。離れて座り、恥じらいながら、だんだんと近くへにじめる。はっと目と目が合う。恥じらいながら告白。「えっ」という表情。OKらしい。大喜

びで抱きつく。そのまま立たせて、ジョージを相手にワルツを踊り始める。中盤から、AとCが部室に入ってきて、啞然として見ている。ダンスのフィニッシュ。Bはポーズを決める。

B トレ・ピアン！

やや静止するが、はっとA・Cの視線に気付き、ジョージをいきなり床に叩きつける。

B そんなことで紅天女が演じきれれると思ってるの？

どすどすとふみつける。

B 月に代わっておしおきよ！

ジョージの腕を取って、起こすと、巴投げ。

B 母シャチゆずりの巴投げ！

以下、可能な限り、様々なアニメネタを駆使してその場をこまかそうとするが、だんだん思いつかなくなってきた、ネタとネタの間に考える隙間が出来はじめ、ついに。

B 早く止めなさいよ！

A ええっ？

C そこまでやって逆ギレ？

B ……。

A まあ、座って落ち着きなよ。

C 何してたの？

B へ別に。

A 分かりやすいどもり方。

C ずばり恋してるでしょ？

B ギギク！

A ギギクって…。

C 白状すれば？

B 何にもないってば！

C そうか、そっちがその気なら…。

照明暗くなる。C、部室の荷物の中から、電気スタンドを取りだし、点灯してBの顔にまともに当てる。

B やめて！

C やめてほしけりゃ白状するんだな！

B わ、私は何も。

C しらばつくれるな！ ネタは上がってるんだよ！ さっさとゼロするんだ。楽になるぜ。

A まあ、待て。

C ヤマさん。

A 腹減ったろう。はらへこじゃあ、吐くにも吐けないよな。さあ、食べ。(どこからか井を取り出す)

B こ、これは！

A 吉野屋、牛丼特盛りツユだく、アーンド…ねぎだくだ。

B たまねぎ嫌い。

C あんだとおおっ、ためえいい気になりやがって。

A まあまあ。たまねぎが嫌いなやつに悪い奴はいないっていうじゃないか。

C ヤマさん。



- C いいんだよ。これが青春だ。  
B そつか、これって青春なんだ。  
A 絶対違うと思うぞ。  
C そつと決まったら、練習だ。

C、転がっているジョージを拾ってくる。

C これを彼氏として、デートのイメトレをします。

A よりよってこれ？

B よーしっ。

A なんて張り切れる？

C さち、二人で行きたいところは？

B アニメイト。

A 一人でいやってほど行ってるだろ。

C オタクの臭いは絶対出しちゃダメ。

A うん。女の子らしく。

C かといってなあ。

B 何？

C おしゃれな所行っても無理があるし。

A じゃ映画？

C 映画だったら何観たい？

B 「(マニアックなアニメ映画の題)」

C やめよ。

A オタク知識全開でしゃべりそうだし。

C 地味に行こうか。

A 動物園？

C ん、まあ、そんなところが。

A いい？ 東山。

C じゃあ、会話の見本見せるからね。適当な所で、女役交替するから、上手に話をつないでみて。

M E。Cがジョージを操って、男役、Aが女役を演じる。

C いやあ、動物園なんて久しぶりじゃない？

A うん。

C 実は小さい頃さあ、らくだに、持ってたパンのビニール袋食べさせちゃってさ。

A ええっ、

C しかもちつ。次の日のニュースで、らくだの緊急手術ってやってて。

A だめじゃん。

C ま、子供の頃だからさ、許してよ。(AがBに役を譲る)

B 認めたくないものだなあ、自分自身の若さゆえの過ちというものを。

A いきなりアニメかい！

C そついうの、思いついても言わない。

B ん。

A じゃ、次。

C たまにはかわいいポケモかもまして。

A ねえねえ、あれ見て。

C ああ、でっかいねえ。

A あれってさあ、たしか夢を食べちゃったよねえ。

C バカだなあ。(おでこを「シン」) あれは、カ・バ。

- B バクとは違うのだよ、バクとは！
- C うるさいよ！
- A なんてさっきからガンダム？
- B 動物園といえばファーストガンダム。
- A なんてだよ。
- C わけ分からん。
- A あ、動物園ってさあ、女の子としては困るシモがあったシチュエーションにも会うよね。
- C あー。うわあ、ぞうのうんこデカッ。
- A やだもう。
- C おお、ぼとぼと落ちてる。
- B させるかーっ！
- A させてやれよ！
- C ぞうの便秘ってどんだけ大変だよ。
- B はー。
- A どうなの？ いけそう？
- C いけそうな気がする。
- B いけそうもなにも。
- A ん？
- B そもそもどうやって二人で動物園ってとこに至ればいいのか。
- A・C あー。
- A …告げる？
- B 無理。
- A・C だよなあ。

翌日、またあとをつけているB。しかし、舞台の反対側にも人影が。思わず二人目が合う。Jである。

B・J あ。

J まさか。

B え？

J、駆け去っていく。AとC出てくる。

下手花道にスポット。Jが登場。

B 許さないわ、ものもらいさん。私の邪魔はさせない！

A どういうこと？

B たぶん、生徒会長も同じ人をおっかけてる。

C えー。

B まち、発声練習行こ。

A え？

C どこへ。

B 第二校舎前。

A まじで？

B だって、声が聞こえなかったら、どうしようもないじゃん。

C そりゃそうだけど。

B 絶対、あの生徒会長、大会見に来てうちらのことせせら笑っに決まってる。

A うわあ、うれしそうな顔が目に見え。

C そんな、高らかに演劇部廃部を宣言する。

B やだ。もう悔しいのやだ。引っ込んでばっかりはやだ。

A さちが言つと重みがあるねえ。

C 行こうか、第二校舎。

A よしっ。

ME。戦いにもいくような悲壮な表情で、移動する三人。思い切って発声し始めるが、二人くらいが通りかかると、逃げようとしてしまう。Bが引き留める。続けていると、また三人通りかかる。今度はBが逃げ出すのを二人が止める。そうやっているうち、声が出るようになる。通りかかっても逃げない。やがて、立ち稽古に入る。始めはくすくす笑って通り過ぎている生徒たちが、時々立ち止まって見ていくようになる。さらに、前に座り込んで見ている生徒が出てきて、最終的には、ラストシーンあたりの練習で、生徒たちから拍手が起きる。三人手を取り合っ。

暗転。

アナウンス「これより三段原東高校による、非常口美智子作『パラシュート・リミット』をお送りします。」

溶明。ME。劇のダイジェストを、サスを入れ替えてどんどん演じる。

パラシュートを突き出しているC。

A「ええっ!」

B「私たちが飛ぶの?」

C「他に誰もいないんだよ。」

B「地上1237メートル」

A「そんな。」

C「飛ぶしかないんだよ、飛ぶしか。」

A「無理無理無理!」

B「命綱付けて!」

C「そんなダイビングがどこにある!」

C「逃げるのか!」

A「やってられないんです!」

B「こんな怖いのに、できるはずない!」

A「先生!」

C「そう。これが空から見た世界。降ってくる大地だ。」

B「降ってくる大地」

A「先生!」

B「やらせてください!」

C「本気なのか?」

A「運が悪けりゃ。」

B「死ぬだけです。」

C「そうか。」

A「先生! パラシュートが!」

C「何い!」

B「私怖い。」

C「やめるか?」

B「やめるのはもっと怖い。」

C「左右から抱きつくA・B」

C「よくやった」  
A・B「ありがとう」

去っていくC。

A「また会えるよね。」

C「ああ。」

B「地上1237メートルで。」

C「うん。限界を吹き飛ばしながらな。」

ME。緞帳下りてくる。下りきる前に、下手袖から、実行委員Oが出てくる。続いて、A・B・C。

Oでは、これより幕間講評に移ります。まず、演出の方から、演出意図を説明してください。

A えーと、この劇は私たちのことです。今年廃部寸前の演劇部に入って、先輩もいなくて、でも、なかなか思い切って人前に出られなかった私たちのことを劇にしました。ありがとうございました。

Oでは、順にキャスト紹介をお願いします。

A 練習生1をやりました、一年、非常口真智子です。(拍手のSE)

B 練習生2をやりました、一年、鳥目佐知です。(拍手のSE)

C 教官をやりました、一年、堀之内睦美です。(拍手のSE)

Oでは、会場からご意見・ご感想をもらいたいと思います。意見のある方は挙手をお願いします。

客席から「はい」と声が出る。客電点く。JKLMが座っている。Jが立つ。ABC、顔を見合わせる。

J 見せてもらったわ。演劇部。はつきり言って、へたね。

ABC、複雑な表情。

J けど、あんなに下手なのに、どうして私までどきどきするのかしら。変な人たち。

また、どきどきさせてくれる？

A はい！

J 次も来るわ。

J、席を立って、階段を上がっていく。

KL M 会長！

KL M、あわてて後を追う。かなり上に上がったところで、Jが振り向く。

J でも、恋までは譲らないわ。覚えておきなさい。ものもらいさん。

B 望むところです。

ME。Cが泣き出してしまふ。上手からR登場。肩をぼんと叩いて、笑いかけ、懐を探るが、何もないので慌てる。R、手をぼんと叩いて合図すると、上手袖から、NとOが二人がかりで、一メートルくらいの竹輪を持ってくる。贈呈式をおこないながら、竹輪をCに与えるあたりで、緞帳が上がっていく。

A さあ、次行くか！

B・C うん。

ME。以下の場面が次々に流れる。時折、前を横切る生徒の服装で、季節の移り変わりを示す。

冬服の生徒が通り過ぎる。

A「秋の合同公演どうする？」

B「今度は既成ってやってみたくない？」

C「いいね。」

BとJが横並びになって、手紙を差し出して頭を下げている。

同時に、二人が顔を上げる。二人とも絶望の表情。

二人、見つめ合って、やがて抱き合う。

マフラーをした生徒が通り過ぎる。

C「何、勝手に決めてんのよ。」

A「いいじゃん、合同練習。」

B「ええっ？」

A「うちら教えてくれる人いないんだよ。」

C「ま、そりゃそうだけど……」

A「勇気だそ。」

B「まぢ、キャラ変わってきてない？」

A「そうかな。」

卒業式の筒を持った生徒が通り過ぎる。

A「早苗さん！」

J「あ、ひさしぶりい。」

B「合同公演来てくれましたましたよね。」

J「行ってくつて言っただでしょ。」

C「卒業おめでとございます。」

AB「おめでとございます。」

J「おもしろかったわ、あんたたちいて。」

A「うちらもです。」

J「言っね。」

B「頑張ってください。」

J「あんたたちもね。」

A「ええっ、私が部長？」

B「それしかないでしょ。」

A「いやいや、む……」

C「無理は禁句って自分が言ったんじゃない。」

A「う。」

B「安心して、ちゃんとバックアップするから。」

C「そうそう。一年の前で部長なしますいでしょ。」

A「一年かあ、どうする？」

B「何が？」

A「新入生歓迎公演。」

C「うおおお。」

B「また一段と勇気があることを。」

C「……でも、やるか。」

B「うし。」

A「決まりっ。」

ME終わる。三人の前に、新入部員DとHが並ぶ。

- A えー、ほんとに？  
B かんどーっ。  
C 五人かあ。  
D 香奈恵です。かなびと呼んでください。  
E 玲子です。れいちゃんって言われます。  
F まなです。まあって呼んでください。  
G 和江です。かずちゃんってことが多いかな。  
H 直実です。なおなおです。  
A 演劇部ほんとにやりたいの？  
五人 はいっ！  
B 舞台に立つためには何でもできる？  
五人 はいっ！  
C やる気まんまんだあ。  
A うちらと違うねー。  
B 第二世代ってやつ。  
C じゃ、部長指示を。  
A そうだね、じゃあ、外へ出て発声といきましょう。  
五人 はいっ！

みんなでぞろぞろ外へ出る感じ。横並びになって、発声練習。

- A 「アメンボ赤いなアイウエオ」はいっ。  
全 「アメンボ赤いなアイウエオ」  
A 「梅の実落ちても見もしまい」  
全 「梅の実落ちても見もしまい」

すると、一人の生徒Pが前を通り過ぎる。はける寸前に、くすつと笑う。一瞬の間があって。

- 一年五人 無理無理無理無理！  
二年三人 (苦笑い) ∴ 同じか。

暗転。小さくME。「パラシュートリミット」かかる。すぐに溶明。出演者ほぼ全員が、制服の上にパラシュートを背負って、横並びにいる。

アナウンス これより三段原東高校によります、「パラシュートリミット」をお送りします。

- A せーのっ。  
全 (叫ぶ) 行っけーっ！

全員、スローモーションで舞台前面に全速力で駆け出していく形。やがて、それぞれの「えーいっ」という表情で、思い思いの格好のスカイダイビングに飛び出していく恰好のまま、ストップモーション。ホリゾントが真っ青な空の青に変わり、「パラシュート・リミット」のサビが高らかに流れる中、幕。

使用を指定する音楽 P S Y ・ S 「パラシュート・リミット」